

歴史都市京都における密集市街地・細街路の防災まちづくり情報誌

# るじまな 通信

Vol.10

令和元年 8月

■編集・発行■

京都市都市計画局  
まち再生・創造推進室



できることから始めよう！

## \*地震への備え できることから始めよう！

いよいよ令和の時代が始まりました。平成は、戦争のない平和な時代でありましたが、一方で、多くの自然災害に見舞われ、災害の時代であったとも言われています。30年の間に、阪神・淡路大震災や東日本大震災をはじめ、多くの地震災害に遭遇しました。

新しく迎えた令和の時代においても、地震に対する平時からの備えは必要です。

国の発表では、南海トラフ地震の発生は、切迫性が高まってきているとされています。九州から関東地方にかけて広範囲の被害が想定される中、京都においても震度6の揺れが見込まれています。

また、京都府の主な活断層である花折断層による地震が起こった場合、市街地のかなり広範な地域で震度6強以上となり、一部の地域では、震度7となることも想定されています。

今回は、地震に備え、個人をはじめ、路地単位、学区単位で、対策を進められている事例をご紹介します。

2～3ページで事例を  
紹介しています。

## \*防火改修への支援がスタート！

京都市では、近年、木造密集地や路地で、延焼火災が複数起こっています。趣のある京町家や幅の狭い路地が集積するまちなみは、歴史都市京都ならではの魅力となっていますが、火災が広がりやすいという課題にもつながっています。

延焼火災からまちを守るため、京都市では今年度から、密集市街地等において、外壁や軒裏、開口部の防火改修や感震ブレーカーの設置に対し、支援をスタートしました。

耐震改修と合わせて、防火改修も行いましょう！

支援制度については4ページ  
で紹介しています。



# まちの安全性を高めるために

活用された  
支援制度は  
4Pを  
ご覧ください

個人

## 【袋路等の入口部分】表札門がより安全になりました！

上京区  
聚楽学区

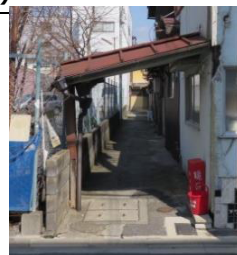
トンネル路地や表札門は、京都らしい風情ある佇まいを残していますが、老朽化が進み、緊急時はもとより、日常生活においても、通行の安全性が確保できない場合があります。近年では、地震だけではなく、台風など自然現象による脅威を感じることも多いため、対策を講じられました。

### ＼地域の声／ 聚楽学区住民 八木さん（聚楽学区社会福祉協議会会長）

柱の老朽化で屋根が傾いていて、以前から危ないと思っていました。学区で取り組んでいる防災まちづくりの中で助成制度を知り、路地にお住まいの方も多いので、安全のため改修しました。除却ではなく改修したのは、京都の良さでもある路地の雰囲気を残したかったからです。

柱の取り換えで、見た目もきれいになり、耐震性も向上し、安全性が確保できました。非常に満足しています。

【実施前】



【実施後】

個人

## 【ブロック塀】通学路の安全がまた一つ確保できました！

北区  
紫野学区

通学路に面して高く積まれたブロック塀。子供たちの安全はもとより、災害時の倒壊で、避難や救助、消火活動などを妨げることにもなりかねません。今回、アルミ塀に改善されたことにより、さらに安全性が高まりました。

### ＼地域の声／ 紫野学区住民 森さん

庭にある松の木の根がいたずらし、背の高いブロック塀が少し傾いていました。2019年春に、紫野小学校と楽只小学校が統合され、ブロック塀があるこの道は、楽只学区から紫野小学校までの新たな通学路として使用されています。

大阪府北部地震での被害もあったので、少しでも安心して通ってもらえるように、通学路にある不安な箇所をなくせればと思いました。

以前から危ないと思っていましたが、何かあってからでは遅いと感じ、改善することにしました。

ご近所の方々にも感謝され、不安がなくなったので非常に嬉しく思っています。



【実施後】



【実施前】

路地単位

## 【緊急避難扉】袋路が2方向避難できるようになりました！

中京区  
朱三学区

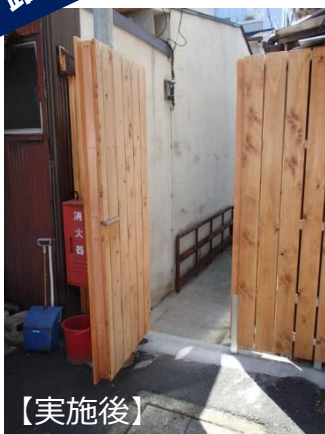
袋路は、静かな住環境が保たれ、防犯面で安心できる反面、災害時に避難経路が確保できない恐れがあります。

この袋路では、住環境を保ちつつ、安全性の向上を目的として緊急時のみ使用するための木製扉を設置されました。

また、この町内では他にもブロック塀の改善が進み、町内の安全性を高める取組が広がっています。



【実施前】



【実施後】

### ＼地域の声／ 平成30年度町内会長 大西さん

町内会の会議で地藏盆の会場となる袋路のブロック塀が危ないのではないかと意見が出て、改修を検討しました。

以前、町内でブロック塀の改善事例が2件あったので、実施した方に相談して、進めました。

袋路なので、ブロック塀を再度建てるより避難扉にした方が、この路地の居住者のためになると考えました。設置場所周辺にお住まいの方の同意を得られるか心配しましたが、皆さん快く賛同してくださり、袋路の避難経路を確保できてよかったと思っています。



# 学区単位で取り組む防災まちづくり

## 学区単位

### 高齢化など地域課題に対応した防災まちづくり(下京区菊浜学区)

京都駅や繁華街に近く、利便性の良い菊浜学区では、近年、簡易宿所やホテルが急増し、外国人観光客が目立ちます。その一方で、地域からは住民が減り、単身高齢者世帯が増え、地域防災力の維持が切実な課題となっています。そうした中、菊浜まちづくり推進委員会を中心に、福祉の視点も盛り込んだ防災まちづくりの取組が進められています。

地域の防災上の危険箇所を確認する防災まちあるきの際には、参加者が車いすや足に重りをつけるなどの装備を行い、**高齢者や障害を持つ方の目線で、避難の支障になる箇所をきめ細やかに把握**されました。

他地域の取組にも関心を持たれており、区役所のまちづくりサポート事業を活用し、六原学区や朱一学区の先進事例を積極的に取り入れられています。災害時などの緊急時に、**入り組んだ路地奥にある住戸の位置を迅速かつ的確に伝えるため、各路地に名前を付け、その名称を路地入口に銘板で表示**。消防や警察とも、路地の名称や位置の情報共有が行われています。

また、学区の各所にある消火器ボックス等には、**町内の災害時集合場所を表示するステッカーの取り付け**も。ステッカーには、外国人観光客向けに英語の表示も行われています。

そのほかにも、電気・ガス・水道のどれかが使えないといった災害時を想定した調理法を体験する「減災カフェ」の開催など、**住民の方に災害を意識して行動してもらう機会を工夫して設けられています**。



路地名称の銘板と集合場所を示すステッカー

#### 地域の声



菊浜まちづくり推進委員会 会長 竹田 宏三さん

路地の銘板や町内集合場所の表示は、目に触れる箇所にたくさんあるので、住民の皆さんに日頃から防災を意識してもらうきっかけになると嬉しいです。高齢化が進んでおり、今後認知症の方向への避難対策も必要だと考えています。

## 学区単位

### オンラインマップを活用した災害時の情報伝達(下京区有隣学区)

有隣学区では、有隣まちづくり委員会を中心に、京都大学大学院 前田昌弘講師のご協力を得ながら、防災まちづくりの取組が進められています。

平成30年度の学区総合防災訓練では、地域の集合場所や一時避難できそうな箇所など、災害時の避難に役立つ情報をまとめた防災まちづくりマップを活用し、避難訓練を行うことに。ただし、**今回活用されたのは、紙版のものではなく、紙版をウェブ上に取り込み、位置情報と連動させたオンラインマップ (Stroly) です**。

防災まちづくりマップの有効な活用方法について話し合いを行う中、**マップをオンライン化し、災害発生後の地域の情報をマップ上にリアルタイムで発信し、情報伝達の手段とするというアイデアが生まれました**。

スマホに不慣れな方や利用されていない方もおられるので、予めスマホでのマップの閲覧方法について、丁寧に説明が行われた上で、防災訓練を迎えられました。

訓練では、**オンライン上のマップに建物の倒壊による道路の閉塞など、仮想の被害状況が表示され、参加者はそこを迂回して避難を実施**。その後、**避難所までどのルートを使って避難を行ったのか、参加者全員で確認を行うと、自ずと防災上の重要なルートが明らかになりました**。

訓練後のアンケートでは、今回の訓練を評価し、今後も継続を望む声が多く見られました。

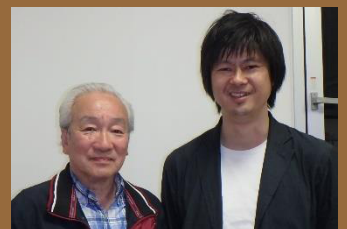
スマホを利用していない方や利用できない状況もあるので紙情報は必須ですが、これに加え、**オンラインマップも災害時の情報伝達手段のひとつとして、手応えを感じておられます**。

#### 地域の声

(山田会長) 今回の訓練に初めは不安もありましたが、実際にやってみると、多くの方がスマホを活用して行動され、前向きな評価もいただきました。

今後は、避難時だけでなく、その後の避難生活も想定した情報伝達の手段を考えておく必要があると思っています。

(前田講師) マップのオンライン化自体はそれほど難しいものではありません。それ以前に、マップの作成過程で、災害時に必要な情報の整理ができたことが大きいです。また、今回の試みで幅広い方にマップを知っていただき、いざという時に役立っていただければと思っています。



(左) 有隣まちづくり委員会 山田 章一 委員長  
(右) 京都大学大学院工学研究科 前田 昌弘 講師

## みちの取組

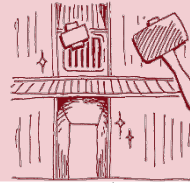
### 袋路等の緊急避難経路を整備しましょう。

緊急避難扉の設置に、**最大30万円**を補助します！（全額補助）



### 袋路等の入口部分を強くしましょう。

入口部分の建物の耐震・防火改修に**最大250万円**、  
入口部分の整備に**最大50万円**を補助します！（全額補助）

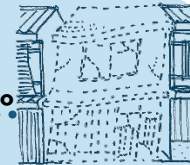


## まちの取組

### 老朽化した木造建物を除却しましょう。

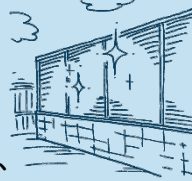
袋路に面した家を除却し、周囲の防災性が向上する場合、  
**最大60万円**（補助率2/3）を補助します！

※跡地の利用について要件があります。



### 古いブロック塀を改善しましょう。

袋路に面したブロック塀の**除却費：最大11,600円/m<sup>2</sup>**や、  
それに替わる金属塀等の**新設費：最大8,900～14,700円/m<sup>2</sup>**（仕様による）  
を補助します。（全額補助）  
※袋路以外の道に面するブロック塀等の除却に対する補助制度もあります。



### 建物の除却跡地等を防災ひろばに整備しましょう。

**建物除却費：最大100万円**（補助率9/10）、  
**ひろばの整備費：最大200万円**（全額補助）を補助します。  
さらに**固定資産税が非課税**になります！



#### ◆お問合せ先◆

京都市都市計画局

まち再生・  
創造推進室

TEL

(075)

222-3503

## ～木造住宅の耐震・防火に関わる支援事業について～

いずれも昭和56年5月31日以前に建てられた木造住宅が対象です。

### まずは、ご自宅の耐震診断を受けましょう。

京都市から耐震診断士を派遣します。**診断は無料**です！

### ご自宅を耐震改修・防火改修しましょう。 ※1

#### ○ 耐震改修

- 木造住宅は**最大100万円**、京町家等は**最大120万円**\*<sup>2</sup>補助します！
- 土台や柱の修繕（最大20万円）、屋根の軽量化（最大30万円\*<sup>3</sup>）等、**部分的な耐震改修**に対しては、**合計最大50万円**（京町家等は**60万円**）！

#### ○ 防火改修\*<sup>4</sup>

- 軒裏の防火改修工事（最大20万円）、外壁の防火改修工事（最大20万円）等、**合計最大50万円**（京町家等は**60万円**）を補助します！

※1 補助率は全て8/10

※2 延べ面積120㎡を超える場合は、超過面積に応じて1㎡あたり1万円引上げ（最大300万円）

※3 耐震診断なしの場合、最大20万円

※4 密集市街地を中心とした市が定める区域内に存するものに限る  
（詳しくは[京都市 まちの匠事業]で検索いただくか、窓口までお問い合わせください。）



## いえの取組

#### ◆お問合せ先◆

京都市住宅供給公社

みやこ  
京 安心すまい  
センター

TEL

(075)

744-1631

<お問合せ・ご相談はこちらまで>

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室（密集市街地・細街路対策担当）  
TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■京都市印刷物 →バック  
第314367号 ナンバー  
令和元年8月発行はこちら



京都市  
CITY OF KYOTO



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！